

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/久保田勉

“異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌”

## 「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第7回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第6弾」が【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の真相と現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



### 宗形明・陳述書（2009.3.3東京地裁）その4【松崎氏による組合私物化】について

1. 嶋田氏及び編集委員会著の『虚構からの訣別』に《平成14年7月30日、ホテルエドモントに角岸委員長、石川副委員長、本間業務部長を呼び出し、松崎前顧問は6.7林和美レポートを出して「これがすべてだ。嶋田の委員長代行を外す。阿部の局長を外す。嶋田の後は石川やれ、阿部の後は本間がやれ」と通告し、角岸委員長を「その方向で…」と承知させたのである。》と記述されています。ここで、「本間業務部長」とは、その後、労組からの革マル排除を旗印に「JR東労組を良くする会」を起ち上げ、更に東労組を脱退、新労組「ジェイアール労働組合」を結成、同労組初代委員長に就任した本間雄治氏その人です。本間氏もその場に居合わせたこの場面こそ、「松崎氏による組合私物化」の実態を典型的に物語るものです。言論の自由が保障され、民主的に機関運営される「普通の労働組合」では、大会、中央委員会など、労働組合の正規の手続きを踏まずに幹部役員人事が変更されることなど絶対にあり得ません。しかし、松崎氏の発する言葉は超「組合規約」的"玉言"として東労組内部では取り扱われるのです。

翌、7月31日、角岸委員長は、前日松崎氏に命令された「嶋田副委員長の"委員長代行"を外す」「阿部局長の"局長"を外す」ことを、企画会議のメンバーに提起しました。そして、同年10月31日の「嶋田、阿部、本間氏ら東労組本部中執8名一斉辞任」にまで至ったJR東労組の激しい内部紛争が始まったのです。

2. 松崎氏がオーナー（一人株主）であるという「さつき企画」は、JR総連の関連企業です。

2002年（平成14）の春、松崎氏の長男篤氏が「さつき企画」社長に就任しました。同社は社員十数人の小さな会社ですが、当初はかなりの黒字会社だったのに、篤社長の時代になってどうしたわけか赤字会社に転落してしまいました。2004年1月、篤社長は退任し、松崎氏の腹心といわれる奈良剛吉氏が「JR東労組副委員長」のまま、同社社長に就任しました。平成16年1月吉日付挨拶状の差出人名は「株式会社さつき企画代表取締役非常勤社長 JR東労組本部専従副委員長奈良剛吉」です。そして、2004年2月27日、「さつき企画」代表取締役社長・奈良剛吉氏は、目黒さつき会館で開催された「第19回臨時評議員会」の場に「さつき企画の経営再建のためのご協力をお願い」と題した一枚物の資料を提示し、「株式会社鉄道ファミリーによるさつき企画全株式の購入」及び「さつき企画の累積欠損額に相当する債務の債権放棄による解消」などについて承認を得ました。「反対意見は一切出なかった」と伝えられていますが、この04.2.27「第19回臨時評議員会」は、“入院中”の佐藤政雄理事長に代わって、小田裕司副理事長（JR総連委員長）が開会のあいさつを行い、報告・資料説明者は四茂野修（さつき会事務局長）でした。これはどう見ても、「松崎組幹部」（松崎ファミリー）総出演によって、「さつき企画」オーナーの松崎家が責任処理すべき赤字を、「株式会社鉄道ファミリー」（JR総連の関連企業）に転嫁するための儀式に外なりません。

【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌（高木書房）P.90～P.92】